

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本的理念を土台に今までに培ってきた思いや経験を活用し、住み慣れた地域で人々との関係性の中で、これまでの生活が継続できて、その人らしさを発揮していただきたい。そして家族のように一緒に、ゆっくりと、安心して、暮らしたいを、実現していきたいと思っています。	グループホームの大切な心ですので、今後もこの理念に外れることのないように努力します。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員として採用の際にはしっかりと伝えて理解をしていただき、日々の業務や申し送りの中でも伝えていきます。管理者とスタッフの信頼関係を築いています。	理念の実現に向けてスタッフ全員で取り組んでいきたいと考えています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の中の普通の民家であり、その地域にとって違和感もなく、隣近所とおつきあいをさせていただいています。グループホームだよりを地域全戸に配布したり、地域の行事に参加したりして理解を深めていただけるようにしています。ご家族へのお便りも発行しています。	構えない姿勢で普通のお付き合いを今後していきたいと考えています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所や地域の方々とおつきあいは常にあります。お野菜やお花を頂いたり、冬には庭から駐車場の雪かきのお手伝いをしていただいたりとお大変お世話になっています。冬の時期に盆栽を楽しませてくださるご近所の方には感謝しています。	今まで通りのお付き合いをしていきたいと考えています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の生き生きサロンに参加したり、敬老会や他地域の行事に参加しています。日々の買い物や利用者さんのご自宅がすぐに近くなのでご近所の方々との交流があったりと違和感が無いと思っています。地域の掃除や防災訓練に参加するなどしています。	今まで通りのお付き合いをしていきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の方々の相談に乗ることがありますし、地域の役員さんの依頼で認知症についての講演をすることもあります。ボランティアさん、実習生の受入は常に行っています。		地域の方々にはもっともっと認知症のことについて勉強をしていただきたいし、認知症についての理解を深めていただく事が必要であり大切なことと感じています。働きかけていきたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全員に伝えてスタッフ全員が自己評価を行います。そのことによりさらに日々のケアが理解しやすく働きがいに繋がると思っています。		評価は管理者、スタッフにとっては日頃のケアを振り返るチャンスでもあり、この機会をいかしていきたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員さんに知っていただくことはとても有益なことと感じています。会議後にお年寄りとの会話やお茶飲みで昔ながらの風習や地域行事など話が弾んでとても良い会議です。		新年度になり新しい役員さんに交替し、更に理解の幅が広がると感じていますので、運営推進会議を有効に使いたいと考えています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の方に知っていただく良い機会と思います。毎回ご案内とお願いに伺っていますが、なかなかご出席はいただけません。出来るだけご出席していただけるように努力します。		市の職員さんが積極的に参加して下さると良いと思います。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見を利用する状況が今のところないこともあって理解度は薄いし、制度を知らないスタッフも居ます。管理者としても不勉強と言えるところです。	○	権利擁護の研修会に2回参加しましたが、今後勉強していこうと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体でも取り組んでいますし、虐待行為はあってはならないことと常に確認しあっています。また毎月の職員全体会議ではアザレアンさなだの宣言を全員で読み合わせを行っています。		継続で取り組んでいきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用されるについて体験をしていただいたり、契約の内容について説明をさせていただいています。生活のことや外出他対応可能な事など全体にわたり説明させていただいています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんのご希望は常にお聞きして対応しています。心配事や不安な表情などの観察もしっかり行っています。またその状況をスタッフで共有し、安心して過ごしていただけるように配慮しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は常に行っています。健康状態に変化のあったときは速やかに連絡し対応しています。金銭管理は個人出納帳に記入し、年に数回出納帳を確認していただき確認の印を頂いています。出納帳のコピーと領収書をご家族にお渡ししています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とはとても良い関係で居ると思います。ご意見などをお聞きしたり、何でも言っていただけるようにしています。	家族会でもご意見などをお聞きしてはいるのですが、要望などはあまりなく、ご家族からの「いつもよく見てもらっている、満足しているの」との声を素直に受け止めてしまっていますが、これからはご家族だけの集まりを作っていけるように支援していきたいとおもいます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの要望や意見を常に聞くように心掛けている。日々の会話の中からも感じ取るようにしたり、個々に聞くように心掛けています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート勤務者が多いので、なるべく身体的にも、家庭的にも無理がかからないようにシフトを組むようにしています。夜間の対応や利用者の状態に合わせて柔軟に対応が出来るように配慮しています。		無理のかからないように考えていきたいと思っています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはスタッフは固定化していますが、新しいスタッフが入ったときには、利用者さんと馴染みの関係づくりが出来るように1ヶ月間はシフトには入れません。(いきなりお年寄りのケアに当たることはありません。)1ヶ月はお年寄りとの関係を築くための期間としています。		利用者、新しいスタッフに必要な期間であり今後も同様に考えています。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議が毎月ありまして、研修報告会の時には、研修発表もがあります。また、法人主催の研修会が毎月実施されています。また2ヶ月に1回のグループホーム勉強会を開催して意識の向上に努めています。パートスタッフにも外部の研修会にも参加できるように配慮しています。		今後も継続です。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	19年度に長野県連絡会の指導により近隣のグループホームネットワークづくりができました。他のグループホームさんとの交流を持つことが出来てお互いの姿勢を学び合うきっかけができました。20年度に向けて活動が始まりまして、期待しているところです。		今後の活動に期待しています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフが困っていることなど出来るだけ聞くように努めています。法人の親睦会やグループホームの交流会も年間に数回行うなど配慮しています。また日々は休憩時間がしっかりとれる時間がないので、お年寄りと一緒に食事の時やお茶の時間をゆっくりと使っていただくようにしています。		狭い環境なのでスタッフに理解していただき今までと同様でいきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自主的に意欲的に向上心をもって働いてくれています。運営者(施設長)との誕生日面談なども行っています。また管理者は運営者(施設長)への相談、報告を常に行っています。勤務に無理のないように注意しています。		スタッフを信頼し明るい気持ちで働ける職場作りをしていきたいと考えています。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があったときは、必ず本人とご家族に会って生活状況や心身の状況やこれからどのようにしたいのかご希望を聞くなどして安心が得られるように配慮しています。		今後も同様に考えています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでのご家族のご苦勞などをお聞きして、事業所の方針や対応などを説明して利用するに当たり安心していただけるように対応しています。		今後も同様に考えています。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認して、体験できる状況であれば体験していただき、もしその状況になれば必要なサービスにつなげるようにしています。		今後も同様に考えています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族に見に来ていただいたり、体験していただき徐々に慣れていただくなどの工夫をしています。即入居ということはありません。		今後も同様に考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お年寄りが中心の暮らしの環境です。常にお年寄りから学ぶことを大切にしています。出来ないことを求めるのではなく、出来ることをやっていたいでいます。大きな自信と役に立っていることの喜びが伝わってきます。	家族みたいな関係のなかで、お互い様といえる仲間でありたいと考えています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く、ご家族とスタッフが共に過ごす時間も多し。ご家族の思いに寄り添いながら一緒に喜び、一緒に悲しみとスタッフもお年寄りも、ご家族もみんな同じ家族という雰囲気です。	この雰囲気を保っていきたくと思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人ご家族と少し距離がある方がお互いを大切に思う事が出来ることを実感しています。外出や外泊など、無理のないように勧めています。また面会時は現状をお話しします。そしてなるべくスタッフが介入せず、ご家族だけの時間にするように配慮しています。	今後も同様に考えています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や実家など、また友人や隣近所のおつきあいを大切にしていますが、お互いが高齢になり、おつきあいが少なくなっています。買い物や散歩などを通じて出来るだけ関わりが持てるように努力をしています。	今後も同様に考えています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報を共有し、心身の状態や気分、感情が日々変動したり時間で変動したりする事を注意深く見守るようにしています。	見守っていきたくと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方々とは良好な関係にあります。果樹農家のお家では毎年収穫の時期に桃やリンゴを届けて下さったり、暮れの交流会には手打ちうどんを打ってくださるなど関係が続いています。		関係性を大切にしていきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。寄り添いながら言葉や表情からくみ取ったり、ご家族などから情報を得るなどしています。		今後も同様に考えています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にご家族から情報を頂いています。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長ととらえていますので出来るだけ情報の収集に努めています。入居後も機会ある毎にお聞きしています。		今後も同様に考えて居ます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活、心理面の視点や、出来ることに注目して、たとえわずかなことでも出来ることを見つけ関わりを持っています。		今後も同様に考えています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをみんなでを行いサービス計画を作成しています。ご本人も交えてカンファレンスを行い意向に添ったものになりたいと思っています。		今後も同様です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行っていますが、状態が変化した場合、即ケアにつなげてしまい、サービス計画書を作成しないままにケアを行っている状況がままあります。		管理者、計画担当者として日々反省しているところですが、情報はとても細かく入ってきてスタッフ間の情報の確認は出来ていますが、今後の検討事項にします。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はとても大切な作業と思っています。スタッフの気づきや利用者の状態変化を個別のケア記録に記載し、スタッフ間の情報の共有をはかっています。		今後も同様に考えています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の機能を活かして入浴車を利用したり、訪問看護ステーションとの契約により、重度化した場合や、終末期の対応が可能でありご本人やご家族の意向に添えるように努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の公民館活動に参加したり、畑のボランティアに来ていただいたりと、ご協力をいただいています。地域の方々にはことある毎にご協力をお願いしています		今後も同様に考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所との連携を持っています。		ご希望があれば活用していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ差し迫っての問題はありませんが、必要性が生じた場合は協働していきたいと思えます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院はご本人、ご家族のご希望に応じて対応している。職員のみでは不可能な受診についてはご家族にもご協力を頂いています。訪問診療に来てもらうケースもあり医療機関と関係を密にしています。		現状を保っていきたいと思えます。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在受診をしている専門医の先生を信頼してかかっていますので今後も受診、相談をしていきたいと思えます。		今後も同様です。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。協力医療機関との連携も充分とれています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはなるべく多く見舞うようにしています。病院側とご家族、訪問看護師とも情報交換を行いながら速やかな退院に結びつけています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定めています。ご家族、医師、看護師、を交えて話し合いも行っています。また、状況に変化がある毎に、ご家族の気持ちやご本人の思いに注意を払い、支援を行っています。		様態の変化によって、ご家族の気持ちも変化することがありますので、思いや気持ちを大切にしたいと思えます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い、安心して終末期を過ごしていただけるように取り組んでいます。急変した場合の対応が速やかに出来るように医療機関、訪問看護ステーションとも密な連携が持てるようにしています。		終末期については、スタッフ全員で受け止めています。人生最後の時を安心して過ごしていただきたいと最善の力を尽くしたいと考えています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	その状況があるときには新しい環境に早くなじめるように連携をしていきたいと思えます。		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や日々のミーティングの折に、スタッフの意識向上を図ると共に、お年寄りの誇りやプライバシーを損ねないように心掛けています。		今後も同様に考えています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お年寄り個々の意志を大切にして、押しつけることのないように、ご本人の意志を確認するようにしています。説得はせず納得をしていただくように関わっています。		今後も同様に考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りのペースの生活です。一人ひとりの体調や気分などを尊重しながら個別的な支援を行っています。	○印 今後も同様に考えています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣や好みに合わせて支援をしています。皆様はおしゃれが大好きです。身だしなみを大切にしています。	○印 今後も同様に考えています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りと相談しながら買い物から、食事作りから食べることについて家族的に楽しめるようにしています。	○印 今後も同様に考えています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの好みを大切にしています。仕事を終えて毎晩の晩酌を楽しんでおられる方がいます。	○印 それぞれの好みを大切にしていきます。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗のないように注意深く見守ったり、排泄表を参考にしてトイレ誘導、おむつ交換などの支援を行っています。	○印 注意深く見守っていききたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別の時間で入浴をしていただいています。寝る前に入浴される方が主ですが、朝食前の入浴の方もおられます。入浴剤で楽しむこともしています。		お風呂は大きな楽しみですので今後も同様に考えています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。日によってはなかなか寝付けず不安な状況にあるときもあり、一緒にお茶を飲んだりおしゃべりしたり、一緒に寝ることもあります。		今後も同様に考えています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや、慣れている仕事など、負担にならないようにやっていただいています。役割になっている仕事などがあり、自信と誇りをもっておられる姿が生き生きしています。		仕事がないことがむしろ不安につながることもありますので、できる仕事を準備しています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方は常に持っていていただきます。必要が生じたときはご自分で払っていただいています。ご家族のご理解を頂いています。		同様です。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や、ご本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じていただきたいと思います。外出、散歩など出来るだけ多くの機会を設けています。		お出かけが皆様大好きですので毎日お出かけしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望があればたいの所までは可能な体制はあります。ご本人に時々ご希望があるかどうかお聞きしています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応が出来ます。お電話でお話をされるととても喜ばれます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもおいて頂いてもよい状況です。他の利用者さんに気兼ねなく過ごしていただけるように配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人全体で取り組んでいます。全スタッフの共有認識としています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どこからでも出られる環境でありまして、最大限の安全性を確保して自由な暮らしを支えています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者人数も少なく、こじんまりとした環境ですので目配り、気配りで安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	お年寄りの状況で判断しています。出来るだけ自然な状況にしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討して、事故を未然に防ぐ工夫をしています。もし事故が発生してしまったら事故報告書を作成して事故の原因を検証して次の事故につながらないように注意しています。ヒヤリ、ハットも行って事故防止につなげています。		ヒヤリ、ハットを活かして事故防止につなげて、事故多発や大きな事故にならないように気を付けていきたいと思えます。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全スタッフが年1回は救急法を受講しています。また緊急時の対応マニュアルを作成して、速やかに対応が出来るようにと考えています。通報訓練も行っています。		急変や非常時に備えて常時、対応できるように心がけていきたいと思えます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今までは事業所だけで避難訓練を行っていましたが、これからは地域の方々にも協力を頂いて訓練が出来るようにしていきたいと考えています。運営推進会議でも協力するからとの応援も頂いています。	○	地域の方はとても協力的でありがたく思っています。運営推進会議の委員様からもご協力いただき実施していきたいと思えます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃の生活状況や体調などに関してもご家族のご理解を頂いています。自由な生活を確保することが大切ですが、予測の出来ない危険等についてもご家族と相談し、対応しています。		その時々で起こりうるリスクについて常に心がけていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況はスタッフ間で共有しています。常に「いつもと違う」観点を見逃さず早期発見に心がけています。そして訪問看護ステーションの対応につなげています。	身体的に重度化してきておられるのでスタッフの観察力を高めていきたいと考えています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認しています。今のところ自己管理をしている方はおられませんので、こちらで管理させていただいています。薬の変更や容量に変化があった場合はスタッフ全員に伝えます。	今後も同様に考えています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多いです。個人個人ににあわせて便秘予防に努めています。例えば起きがけに牛乳を飲んでいただく方、またヨーグルトを毎朝食べていただく方、など個人的にも勧めています。	便秘対策は重要なケアの一つです。今後も継続していきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を常にスタッフは理解しています。個々にあった声かけで日々の口腔衛生に注意しています。	継続していきます。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に摂取量など記録が必要な方は記録をしています。全体的に家庭的な食事を提供しています。自然体だと思っています。	法人の栄養士に相談していますが、特に心配なことはないとのことですので、今後も栄養面など相談していきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防については法人内に感染症対策委員会がありまして、マニュアル化しています。感染症対策の次亜鉛素酸水(コススイ)を常時使用して予防に努めています。法人内の感染症研修会にも積極的に参加しています。		今後も継続して注意深く対応していきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理に注意しています。まな板、ふきんは毎晩消毒しています。食洗機も使用しています。作り置きはしない(次回火をどうして食べられるものについては2食まで)なども決めています。食材は毎日買いに行きます。		継続していきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家なのでとても気軽によっていただける雰囲気です。		花を植えたりこれからも工夫していきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の民家を使用していますので、昔ながらの馴染みやすい環境であります。茶の間の炬燵でゆっくり過ごしていただいています。		お年寄りそれぞれにゆっくり安心して過ごしていただけるように今後も工夫していきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は少なく狭い家の中でも一人で過ごしたい時間やみんなで楽しみたい時間など工夫しています。陽の当たる時間にはその方のお部屋で過ごして頂いたり、茶の間の炬燵で過ごして頂いたり狭い中で工夫をしています。		お一人お一人を大切にしていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個性的なお部屋になっています。	個性をいかして居室内の雰囲気を考えていきたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬は寒くないように、夏は暑すぎないように自然環境を考えて工夫しています。冬は暖房を使うために乾燥しないように注意しています。	環境に配慮してやっていきます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境的には問題があるかもしれませんが、お年寄りになるべくご自分で出来るように工夫しています。	生活全体で工夫していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	無理がなくわかりやすく出来ることに関わっています。個々の力を信じています。お年寄りの自信や力を出せるように工夫する事は楽しみです。	工夫をすることは楽しいですので、今後も同様に考えています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑に野菜を作ったりと日常的に仕事であったり、楽しみであったりと家の周りの環境を活用しています。	継続していきます。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

真田グループホーム

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

真田グループホームは真田という地域の中にあります。築120年の大変古い民家です。「おばあちゃん家に来たみたいね」そんな声が聞かれる昔ながらの家です。そこに暮らすお年寄りは5名です。ここで暮らすお年寄りにとってはとても馴染みのある環境であり、安心できる環境であると思います。いつも誰かが側にいてくれる、声が聞こえる、家庭的な雰囲気です。昔ながらの風習や生活感覚を大切にし、個性的にゆったり、安心感のある暮らしが送れています。そんな真田グループホームです。